

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 太田名部漁港海岸（大沢地区）及び沢漁港海岸への海岸堤防の建設について 未曾有の被害をもたらした東日本大震災から5年5ヶ月が経過し、村民一丸となって復興に取り組んでいるところです。</p> <p>東日本大震災においては、かつて、明治29年と昭和8年の二度の大津波で幾多の犠牲を出した経験から、太田名部地区と普代元村地区は、高さ15.5メートルの防潮施設が整備されていた内側一帯は、極めて最少の被害に止まったところであります。</p> <p>一方、その整備が遅れていた太田名部地区の大沢地内と、堀内地区の沢地内では漁業関係の加工場・倉庫など全てが壊滅的な被害を受けると共に、住宅の軒下にまで波やガレキが押し寄せ、まさに紙一重の状況に至りました。</p> <p>つきましては、両地区の漁業者が将来に向かって意欲をもち生産活動に取り組むためには、災害に強い安全・安心な集落づくりに資する海岸堤防の整備が不可欠でありますので、海岸堤防の建設について、要望いたします。</p>	<p>太田名部漁港海岸（大沢地区）、沢漁港海岸の堤防整備については、今回の被害家屋・施設の調査等踏まえて、村と協議し、実施可能な事業の検討を行った結果、国庫補助事業の採択要件を満たさず事業化が困難であることが判明したところであります。 安全・安心な集落づくりに向け、引き続き、技術的な支援を行っていきます。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>水産部</p>	<p>C</p>
<p>2 主要地方道岩泉平井賀普代線の改良促進について 主要地方道岩泉平井賀普代線の本村普代橋から黒崎間は、地形・地質が悪く法面崩落が多発し、非常に危険な箇所が連続しております。</p> <p>これまでも緊急度の高い箇所の災害防除事業を実施いただいておりますが、本路線は小中学生の通学路線でもあり、産業の振興や広域的な観光連携にも重要な路線であり、早期に全面的危険解消などが図られるよう下記のとおり、要望いたします。</p> <p>また、太田名部トンネルから黒崎トンネル間につきましては、東日本大震災以降少しの時化でも、通行できなくなる状況にあることから、海側への消波対策等について、併せて要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>県道の改良促進 ○災害防除事業の継続 「普代橋からくろさき荘入口付近間」 ○歩道整備 「普代水門から普代橋間」</p>	<p>1 災害防除事業の継続「普代橋からくろさき荘入口付近間」 普代橋からくろさき荘入口付近までの区間で、平成24年4月に法面崩壊した黒崎橋右岸側については、平成25年度に完成し、くろさき荘寄りの法面については、平成26年度に工事が完成しました。平成28年度は引続き普代浜トンネル付近の落石崩落危険箇所の調査を実施し、道路の防災対策を進めていきます。（B）</p> <p>2 歩道整備「普代水門から普代橋間」 歩道整備については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。 御要望の区間に接する普代水門から普代浜トンネルまでの歩道整備については平成26年度に完成しましたが、御要望の区間は事業用地の取得が困難であることから、早期の整備は難しい状況です。（C）</p> <p>3 消波対策「太田名部トンネルから黒崎トンネル間」 御要望の区間は、海に面していることから津波注意報や津波警報が発表された場合は通行止めとしています。今後、波浪時の道路状況を注視し対策の必要性について検討していきます。（C）</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B・C</p>

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 一般県道普代小屋瀬線の改良について</p> <p>一般県道普代小屋瀬線の本村内、茂市地区（年内渡橋）と普代元村（国道45号）間3.5キロメートルは、一部の一次改良に止まっており、自動車交通のみに依存する沿線住民から、早急な整備が強く求められております。</p> <p>また、本路線は、岩泉町・田野畑村・普代村を結ぶ広域基幹農道（しもへいグリーンロード）とも茂市地区及び芦渡地区で連絡し、地域間交流の促進、広域観光の振興、さらには、県内90分交通ネットワーク整備の推進にも大きく寄与する路線でもあります。</p> <p>さらには、東日本大震災の経験から、住民の避難や緊急物資の輸送、災害対応の拠点となる役場や消防分署、普代駐在所、医科診療所などとも連絡する災害に強い地域づくりにも重要な路線であります。</p> <p>村におきましては、これに接続する村道萩牛線（本年度完了、総事業費229,518千円）や、復興枠による普代駅前1号線改良（本年度完了予定、総事業費500,000千円）を実施してきており、地域住民の正に悲願ともいえる本路線の未改良区間の改良を実施されるよう強く要望いたします。</p>	<p>一般県道普代小屋瀬線〔茂市（年内渡(ねんないわたり)橋)～普代(国道45号) L=3.5Km〕</p> <p>一般県道普代小屋瀬線の御要望区間のうち、旧 鳥茂渡（とりもわたり）小学校付近の約400m区間については、平成26年度から調査を実施し、平成29年1月に完成しました。(A)</p> <p>そのほかの区間については、早期の整備は難しい状況ですが、土地利用の状況、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきます。(C)</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>A・C</p>
<p>4 二級河川普代川・茂市川及び普代川河口の整備について</p> <p>二級河川普代川及び茂市川は、大雨時に氾濫を繰り返しており、本村旭日区内では床下浸水等の家屋への被害が発生しております。</p> <p>また、普代川河口は、県より整備いただいた導流堤が安定した流路となっておりますが、東日本大震災による大津波以後、その導流堤の海側先端部分が被災したまま放置された状態となっており、ふ化放流事業用の鮭の遡上にも極めて大きな支障が出ております。</p> <p>加えて、地盤沈下で海岸線が浸食し越波が激しく、このエリアで環境省から整備いただいた普代浜園地休憩所と海岸線までの間の整備計画を立てることができない状況にもなっております。</p> <p>つきましては、河口部分の早急な復旧と越波対策、普代川・茂市川の河床整備・護岸整備など治水対策に万全を期されるよう要望いたします。</p>	<p>県内の河川改修事業については、近年の洪水により家屋の浸水被害が発生した箇所を優先的に進めているものであり、周辺の土地利用状況などを踏まえ、治水対策の中で緊急性、重要性、事業に対する地元の協力等を勘案しながら事業化の時期を検討していきます。</p> <p>普代川と茂市川については、当面、河川パトロール等で河道内の土砂の堆積状況を確認しながら、河川管理上支障があると判断された区間について、土砂の撤去など適切に対応していきます。</p> <p>普代川の河口閉塞対策及び越波対策については、河川及び海岸の管理に支障が生じないよう、村や地域の関係者と御相談しながら対応を検討していきます。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

普代村

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 普代水門・太田名部防潮堤の長寿命化対策について</p> <p>平成23年3月11日に発生した東日本大震災大津波は、東北地方の沿岸部を直撃し、未曾有の大災害が発生しました。</p> <p>本村においても沿岸部各地の漁港・漁業関連施設は甚大かつ壊滅的な被害を受けました。</p> <p>その中であって、普代元村地区・太田名部地区は、普代水門・太田名部防潮堤により守られ、住宅への被害は1棟も無く全国に「岩手県普代村の奇跡」として紹介されました。</p> <p>普代水門は大津波の影響により管理橋の落橋、水門・陸閘の電源設備への大きな被害を受け、災害復旧事業の実施により復旧しておりますし、太田名部防潮堤は遠隔操作に係る陸閘部分の改修が行われております。</p> <p>普代水門・太田名部防潮堤とも建設から32年・49年が経過しており、躯体の劣化が懸念されますので、長寿命化に向けた対策について、要望いたします。</p>	<p>普代水門については、今年度県庁河川課で発注済の「岩手県海岸保全施設等長寿命化計画検討資料作成業務委託」において、普代水門も含めた県全体の施設の維持管理最適化に向けた検討を進めています。</p> <p>太田名部防潮堤の躯体の劣化対策については、今年度より堤防機能回復対策実施に向けた調査設計に着手することとしております。</p>	<p>県北広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>